

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年 9月 25日

【評価実施概要】

事業所番号	2273100137
法人名	医療法人財団 百葉の会
事業所名	グループホーム ゆひもや
所在地 (電話番号)	庵原郡由比町由比427-14 054-377-0810
評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成19年6月25日

【情報提供票より】(平成19年5月25日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16年 6月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	28 人	常勤 14人, 非常勤 14人, 常勤換算	15人

(2)建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	重量鉄骨 造り	
	3 階建て	2 階 ~ 3 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	13,500 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 800 円			

(4)利用者の概要(平成19年5月25日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	5 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 76 歳	最低 70 歳	最高 100 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	湖山病院 望月歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開所から3年、デイサービスセンターと併設のホームである。法人のバックアップもあり研修が受けやすい環境の中で職員の向上意識が高く、資格取得にも意欲的である。その成果は日々の介護に対する改善意識の高さや利用者の個々の意向を重視した生活の支援に顕れていた。近隣の協力が多くホームの特徴で、防災訓練には営業時間中にも拘らず周辺商店の方々の方が一に備えて参加下さっている。職員の協働も良く現在の人員不足を連携により凌いでいる。忙しいときの昼食はメインになる物をデイサービスセンターの栄養課に作っていただいたり、利用者はデイサービスセンターでバラのお風呂を楽しんだり併設のメリットも大きい。地域密着型サービスが実現しているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題と今後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>主な改善課題となった不足の手すりの設置については稟議書を起し本部の承認をいただき、現在工事を待つ状況である。また、利用者のペースで、ゆっくりゆったり、その人らしい生活を支援することを課題としたが、それぞれの利用者がお気に入りの場所でお気に入りの時間の過ごし方をしておりゆったりとした暮らしが支援されていることが確認できた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員全員で取り組んだ。法人グループによる内部監査も行われている為、確認や他の方法は無いかなど問題意識を持った評価となっている。ありのままの自己評価がされており調査の際に納得行くものであった。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では入居者の日常的な暮らしや行事の様子、防災訓練、外部評価受審の報告等話し合い、グループホームへの理解を深めていただいている。ホームからの一方的な報告だけでなく、人手不足の状況を聞いた地域委員からボランティアスタッフの紹介や防災訓練の協力などを受けている。運営推進会議には利用者も出席して地域の方に意見を表明する機会としている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会が年に3回開かれ、家族同士の交流の場となっている。その際、家族だけで話しあう時間をとり、意見や苦情など出しているが苦情などはあまり聞かれない。かつて苦情ポストに1件入っていたが職員と話し合い早急に対処した。バス旅行や、お祭りなど家族も参加していただき気軽に意見等言える関係作りにも努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>併設デイサービスセンターの利用者や散歩で会う地域の方とも顔なじみである。校長先生の配慮によりホームのロゴを中学生に作成していただいたり、プラスバンドの演奏やコーラスも楽しませていただいている。地域の幼稚園やママさんコーラス、お祭りの手伝いや菜園作り、防災訓練と地域から沢山の協力をいただいている。また、ホームも町の老人会教育で講師を務めるなど老人保険事業等に協力している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念「嬉しいことは倍に、悲しいことは半分に」は職員で作上げたものである。更に重要事項説明書の事業の目的及び運営方針の中に「入居者の社会性を重視し、地域住民ならびに併設施設利用者との交流を図り、入居者が住みなれた地域の一員であることを認識できるようにする。」ことが謳われている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、自身の体験からも喜びは共に喜ぶことで倍増し、辛いことは聞いていただくことにより気持ちが楽になれることを理解し、利用者との気持ちの共有に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入して地域の行事に参加、近くの幼稚園児が歌を歌いに来てくれたり、中学生がホームのお祭りにブラスバンドの演奏に来てくれたりする。また、菜園の手伝いなど地域の方の協力があり、防災訓練には近隣商店の人々が大勢参加して共に取り組んでいただいている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回外部評価結果はホーム全体で話し合わせ、設備的なことから書類の確認印に関する細かなことまで具体的な改善がなされていた。今回の自己評価記入に当たっては全職員で取り組み、管理者が纏めたものである。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1回開催されている。入居者の暮らしや行事の様子、防災訓練、外部評価受審の報告等について話し合わせグループホームへの理解を深めていただいている。また、出席者からはホーム運営の助けとなるアイデアや協力を頂きサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の老人保険事業の講師を務めたり、町のケア会議に参加し予防介護等取り組んでいる。役場の担当者にはホームの現状を知っていただき相談も気軽に出来る関係作りがされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者個々の様子をお伝えするお便りを毎月送付し、また家族訪問の際には、積極的に状況を報告している。職員の移動や金銭出納帳の報告は家族会の折に話をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が年3回開かれており、その際、家族だけの時間を作り、話し合ったことを纏めて管理者に提出していただいている。また、苦情ポストをホーム内に複数設置して利用者や家族からの意見や苦情を引き出すよう図っており、意見や苦情には対策を検討し改善に繋げている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職や移動はなるべく最小限に抑える努力をしているが、止むを得ず離職により新しい職員を採用する際には、精神的介護重視で人材を選び、利用者への影響を防ぐよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は年に一回は外部研修を受けることを目標として取り組んでいる。勉強会は困っていること、知りたいことからテーマを決め研修担当職員が資料を集めて毎月の全体会議の際に行っている。資格試験受験者には系列の講師による対策講義が開かれたり、施設内先輩職員による勉強会も予定されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列グループホームと相互訪問しており、その時は利用者も一緒に訪問し、いつもと違った雰囲気を楽しんでいる。職員は他ホームの良いところを見出し、また利用者のレベルによるケアの違いを確認するなど交流によりサービスの向上につなげるよう取り組んでいる。	○	職員レベルでも、地域の他ホームと関わり、交流の機会を持ち、勉強会等を通じて、地域としての介護サービスの質の向上に取り組んでゆかれない。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	他施設から直接入居する利用者が多く、時間をかけて徐々に馴染んでゆくことが出来ないこともあるが、家族から細部に渡る情報を収集して安心して生活していただけよう配慮している。また、併設デイサービスセンターからの利用者もあり、その場合は十分ホームに馴染んでいただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	現在人手が足りない状況のなかでの介護に職員の負担も大きいことと察せられるが、そんな中でも利用者の歌声や、笑顔、時々いただく感謝の言葉、そしてぼろりとこぼれるジョークに職員は仕事の喜びや自信を感じとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面会時や、年3回開かれる家族会等で家族の意見や希望を聞くとともに、常に利用者の気持ちを汲み取ることに心がけて、会議で一人ひとりについて検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成する際は、利用者本人はもちろん、家族との話し合いを大切にしている。希望に沿った介護計画を作成するため、毎月のホーム会議での意見もかみ合わせて、検討している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は2ヶ月に一度見直しがされ、長期目標・短期目標を作成している。その間に、利用者の状態の変化があった場合は、サービス担当者会議を開いて検討し、随時の見直しをして、家族へ状況の変化についての報告もされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスセンターが併設されて交流しており、合同の行事の、「流しそめん大会」などが計画されている。訪問した当日も、グループホームから1階のデイサービスセンターを訪れる利用者の姿がみられた。また、通院支援や家族の宿泊希望にも対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者または家族の希望により往診をしていただいている。現在2週間に一度往診していただいている利用者があり、かかりつけ医の受診や往診について一人ひとりが適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期を迎えられる利用者については、家族と慎重且つ十分な話し合いをして対応している。既にホームで看取らせていただいた経験もある。	○	高齢者には容態の急変も有り得るので早い段階で本人や家族と話し合い個々の方針について職員間でも共有しておくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関しては、常に慎重に取り扱うように心掛けている。家族に同意を頂いた写真の取扱いについても、利用者の気持ちをわが身に置き換えて再度検討し、外部に掲示するホーム便りは写真の無いものを作成するなど細かい配慮がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	契約書に、利用者及び利用者代理人の権利と義務について詳しく記述されており、利用者一人ひとりがその人らしく暮らしていける事を約束しており、出来る限り利用者の希望に沿った暮らしの支援をしている。家族からは感謝とともに、人手不足を心配する声も寄せられている。	○	職員のペースではなく、あくまでも利用者のペースを大切にするというホームの姿勢を継続する為にも、少しでも早く、職員の人手不足を解消することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が一緒に下ごしらえや、盛り付け・後片付けなどしている姿がみられた。食事中も、職員から利用者へさり気なく言葉がけがあり、とても和やかな雰囲気であった。たとえ時間が掛かっても利用者が満足して箸をおくまで、見守りがなされていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂はほぼ毎日立てられていて、利用者の希望にあわせて入浴できる。尿・便失禁してしまった場合も、清潔保持のため、随時入浴していただくなど配慮している。またデイサービスセンターの浴槽を利用してバラを浮かべたバラ湯なども楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事や食事の準備・盛り付け・後片付けなど、自分の役割としてやっている利用者もいる。デイサービスセンターでのレクリエーションの参加や外出、季節の行事など思い思いに楽しまれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブなど支援をしている。近くのコンビニエンスストアへの買い物を楽しみにしている利用者もいて、職員が付き添って出掛けている。ゆひもや便りで、外出や日常の様子がふんだんに紹介されている。	○	身体状況が変わって、外出の機会が少なくなった利用者にも、外の空気や風に触れることで、季節感を肌で感じられるので、そのような機会を作ることを、検討されたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	徘徊をする利用者があるが、鍵はかけていない。入り口にはセンサーを設置し、エレベーターは動くときベルが鳴る等、何かしらのサインで知らせるよう工夫がされている。職員もよく理解し、見守りをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	「防災計画」があり消防署に依頼して、救急法の講習を1回、避難訓練を年2回実施している。社協・教育委員会・ボランティア・近隣の人々にも参加していただいている。	○	夜間は昼間と違って対応者が少なく、利用者全員の非難誘導は困難と思われるので、不安をなくす為にも手順や救急法なども含め、なお一層の備えをお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	前回の評価で要改善とされた項目だが、毎食、栄養摂取量や水分量摂取量をバイタル表に記入して、毎日の合計を出し確認するなどの改善が見られた。デイサービスセンターに栄養課があり、利用者一人ひとりに応じた支援に協力していただいている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々として、明るく、清潔で過ごしやすい空間である。キッチンアイランド型で、利用者も食事の支度や片付け等参加しやすい環境になっている。仕切りがなく、職員の目も行き届きやすい。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、利用者にとって馴染みの物を自宅から持ってきて頂くよう家族に説明し、居室はそれぞれ个性的で居心地良く過ごせる部屋になっている。		